

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	673000642
法人名	特定非営利活動法人 大地
事業所名	認知症高齢者グループホームなごみ
訪問調査日	平成 20 年 11 月 26 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 7 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	673000642		
法人名	特定非営利活動法人 大地		
事業所名	認知症高齢者グループホームなごみ		
所在地 (電話番号)	山形県鶴岡市羽黒町赤川字熊坂47番3 (電話) 0235-62-4331		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成20年9月22日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 3 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	12 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 16.1 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	光熱水費13,500 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,020 円

(4) 利用者の概要(9月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	3 名	要介護2	2 名			
要介護3	7 名	要介護4	5 名			
要介護5	1 名	要支援2	名			
年齢	平均	86.28 歳	最低	75 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	茅原クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広々とした花壇の美しさや畑の出来栄は、農業高校の学生や老人クラブの連携・協力に支えられた地域交流の素晴らしさを、利用者や家族のみならずホームを訪れるすべての人々に教えてくれます。「心に太陽を輝かせよう」を合言葉に、職員が広報、行事、農芸の各委員会にそれぞれ入っており、利用者一人ひとりがその人らしく、生き甲斐を持ちながら楽しい日々を過ごせるよう、利用者と向き合う支援が行われています。また、職員を育てる取り組みにも力を注いでおり、各職員の段階に応じた研修による更なるレベルアップを目指しているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>夜間想定避難訓練も含め、年2回の訓練が実施されており、災害時の効率的な動き方などを身につけることができた。また、地域住民の協力や関係機関の助言を得ること、食糧や生活用品などを備蓄することも行われている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>一人ひとりの職員が自己評価を記入したものを管理者がまとめ、その結果を全体で確認しており、評価の理解につなげることができている。また、前回評価の改善課題であった「夜間の災害発生を想定した対応」については職員全員で取り組まれており、運営推進会議や法人理事会での協力や理解も得られている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、近隣の4地区長や利用者家族も含む30人余りの参加により、活発で有意義な意見交換が行われている。また、今年度は災害対策を含む防災関係の取り組みについても検討されており、その結果を踏まえた基盤作りにつなげることもできている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>日頃から家族には意見や要望を気軽に話してもらえる関係ができており、また、ホームで受け入れをしている、市の介護相談員からのアドバイスや報告も参考にされている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元の保育園児や中高生、老人クラブの人々と親しく交流しており、神社の祭り、敬老会、芋煮会やホーム行事の花壇作り、畑作り、七夕・夕涼み会などに参加できている。また、毎月発行の広報「なごみ」は配布や回覧がなされ、ホームと地域との付き合いの「橋渡し役」にもなっている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の一員として共に暮らし続けられることを、理念の中に盛り込んでいる。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を理解し実践する為に、朝礼で唱和し基本に立ち返りながらケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の保育園児や中高生、老人クラブの人々と親しく交流しており、神社の祭り、敬老会、芋煮会やホーム行事の花壇作り、畑作り、七夕・夕涼み会などに参加できている。また、毎月発行の広報「なごみ」は配布や回覧がなされ、ホームと地域との付き合いの「橋渡し役」にもなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一人ひとりの職員が自己評価を記入したものを管理者がまとめ、その結果を全体で確認しており、評価の理解につなげることができている。また、前回評価の改善課題であった「夜間の災害発生を想定した対応」については職員全員で取り組まれており、運営推進会議や法人理事会での協力や理解も得られている。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催されており、近隣の4地区長や利用者家族も含む30人余りの参加により、活発で有意義な意見交換が行われている。また、今年度は災害対策を含む防災関係の取り組みについても検討されており、その結果を踏まえた基盤作りにつなげることもできている。		

山形県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市(支庁)担当者のところに出向いたり、また、担当者からホームにも来てもらったりしており、ともに連携してサービス向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者ごとに担当職員が「なごみ便り」に暮らしぶりなどを記入し、請求書などと一緒に毎月送付している。また、運営推進会議、広報、家族との面会や電話の際にも報告されている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃から家族には意見や要望を気軽に話してもらえる関係ができており、また、ホームで受け入れをしている、市の介護相談員からのアドバイスや報告も参考にされている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は出来るだけ少なくしており、馴染みの職員が利用者の安心な生活を支え続ける体制となるよう配慮されている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の研修は年間計画を立てて、段階に応じ参加できるようにしており、また、資格取得の支援も行われている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県内のグループホーム連絡協議会の交換実習生の受け入れや相互派遣交流、同業者との勉強会開催などが行われており、サービス向上のための取り組みに活かされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりもっている力や個性に配慮しながら利用者と一緒に生活することにより、互いに教えあったり、支えあったりする関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりが何気なく口にした言葉から本人の意向を汲み取ったり、また、困難な場合は家族などの意見も参考にしながら、穏やかでゆったりとした雰囲気の中で、一人ひとりの個別ケアに生かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録の中から利用者の課題を探り、家族とサービス担当者でチームを組んで意見交換し、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにユニット会議でも見直しは行われているが、急変などで計画見直しが必要な時には、すぐに関係者と検討して新たな介護計画を作成している。		

山形県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	適切な医療が受けられるように、かかりつけ医の往診や 総合病院への通院の介助など、家族と相談しながら支 援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化や終末期に向けた指針に基づき、家族の意向 も聞きながらサービス利用開始時に説明が行われてい る。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	利用者一人一人の人格を尊重し、常に優しい声掛けを しながらか対応されている。また、個人記録などは事務室 内に保管されており、個人情報保護の徹底が図られて いる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめ決められているスケジュールや行事をこなす のではなく、利用者一人ひとりの体調やペースに合 わせた過ごし方を心掛けており、その人らしく一日が過 ぎせるように支援されている。		

山形県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛り付けには畑でとれたものや戴きものなども利用して、利用者と職員と一緒に楽しみながら行っており、和やかな雰囲気の中での食事となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	楽しく自由に入浴を楽しむことができおり、また、入浴拒否がある場合の上手な声掛け誘導、心身の状態に合わせたリフト浴の利用、職員2人による入浴支援なども行われている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	楽しみごとを増やすための検討や工夫がなされており、囲碁、短歌作り、買い物、花壇作り、畑での収穫、ドライブなど、季節に合わせた支援が数多くなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩、ドライブ、買い物などに出かけており、屋内に閉じこもらないような支援に取り組まれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	玄関に鍵をかけない「オープン方式」でのケアが開設当初から実践されており、ホーム周辺の花壇や畑にも利用者は自由に出入することができている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定避難訓練も含め、年2回の訓練が実施されており、災害時の効率的な動き方を身につけることができた。また、地域住民の協力や関係機関の助言を得ること、食糧や生活用品などを備蓄することも行われている。		

山形県 グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量と食事摂取量がともにチェックされており、十分な量が利用者一人ひとりに確保できるよう配慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには床暖房が入っており、また、窓や天窓からの光が差し込む、暖かくて明るい環境となっている。また、色紙、短歌、絵画、写真、季節の花などもあり、心をなごませてくれる空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	神社のお札、位牌、馴染みの家具、身の回り品などがそれぞれ持ち込まれており、個性を大切にした居室となっている。		